

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第21回 縄文遺跡巡りからの気づき



日本銀行仙台支店長 岡山 和裕

私は歴史が好きだ。これまでに1回だけ開催された大河ドラマ検定を受けたぐらいだ。2年連続で家康公検定も受けた。

といっても、卑弥呼がいたとされる弥生時代以降の歴史が中心だった。なぜなら、歴史上の有名な人物が登場し、その人物がどのような状況の中でどのように対応したかが面白いと思っていたからだ。

ところが、である。仙台市に「地底の森ミュージアム」があると聞いたので、行ってみた。土地を掘り起こしたら、次々に遺跡が出てきて、とうとう旧石器時代の地層まで掘り進んだらしい。

当然のこととして、縄文時代以前にも人類は生活を営んでおり、逆に歴史上有名な人物が登場しない縄文時代以前の方が、自由に様々なことを想像できるので面白いと思うようになった。

そうすると、縄文時代の遺跡を巡りたくなった(笑)。2021年7月にユネスコの世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」には、17個の縄文遺跡が入っている。八戸の三社大祭を見に行ったので、その流れで青森県八戸市の是川石器時代遺跡、岩手県一戸町の御所野遺跡、秋田県の大湯環状列石を見に行くことにした。

それぞれの遺跡に面白さがある。是川石器時代遺跡は何と言っても、国宝の「合掌土偶」が目を引き。座った状態で両腕を膝の上に置き、正面で手(掌)を合わせ、指を組んだポーズを取っている。なぜ合掌しているのかについては、出産のポーズという説もある。国宝に指定されている土偶は5つしかないが、その一つだ。

御所野遺跡は、焼失した竪穴住居跡が見つかっており、竪穴住居の焼失実験も行っている。

大湯環状列石は、石で作られた二重の円が二つ並んでいる。二重の円形がなぜ作られたかについては、祭祀・儀礼のためと言われており、この二つの円の中心を結ぶ線は、夏至の日没方向ともほぼ一致しているとのこと。やはり縄文時代は、自

然と共生していたので、縄文人は太陽の軌道が大変大事だったということではないか。

そして、縄文時代について少し調べてみた。縄文時代と一括りに言っても、紀元前1万3000年から紀元前400年という非常に長い時代である。途中に今よりも温暖化が進んでいた時期があったと言われており、農耕文化に移行することなく、狩猟・漁労・採集を基盤とした生活をしてきたのだ。すなわち、気候の変動によって、確保できる食材が変化する中で、長い時間をかけてそれに対応してきたということらしい。ということは、温暖化が進行している現代においても、見習うべきことが多くあるのかもしれない。

この三つの縄文遺跡を見終わった後に、秋田県のある温泉に泊まった。その翌朝、温泉宿で地元紙を読んでいたら、何とこの三つの縄文遺跡を巡るスタンプラリーを行っているとのこと。これは、青森県、岩手県、秋田県の関係部署が連携した素晴らしい取り組みだと思った。

そうこうしていると、この三つの縄文遺跡の共通点を見つけた。この三遺跡は、今は別々の県にあるが、いずれも盛岡藩(南部藩)の領地内にあるのだ。その理由は先月のコラムにある。そう、秋田の大湯環状列石の近くには尾去沢鉾山があり、この地を盛岡藩(南部藩)が治めていたのだ。すなわち、鉾山は藩の境界にも影響していたのだ。

やはり経済の歴史は面白い!!

岡山 和裕氏 プロフィール

1969年(昭和44年)生まれ
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任